

岐阜市の「いま」をどこよりも早くお届け！

編集者：廣瀬、
沖本、森、鈴木、
山田

NEWSLETTER

2040
1
号外速報

岐阜市で実現！「車が無くて、豊かに楽しく暮らせるまち」

かねてから市民が待ち望んでいた「車が無くて、豊かに楽しく暮らせるまち」がついに実現！今回は「車が無くて、豊かに楽しく暮らせるまち」の一部を皆さんにご紹介します。

Topic 01 医療・介護・福祉まるっと連携、在宅生活を支える基盤が完成

岐阜市が2025年から本格稼働させた「医療・介護・福祉まるっと連携プラットフォーム」。同プラットフォームは、市内327の医療機関と154の介護事業所、89の福祉施設をICTで結び、リアルタイムで利用者の情報を共有。通院困難者向けの送迎サービスは年間延べ8,200回利用され、受診控えは15年前の3分の1まで減少した。「かかりつけ医とヘルパーさんが連携してくれて安心！」と語る田中さん(82)。昨年の軽い脳梗塞後も、医師とケアマネジャーが連携し在宅復帰を果たした。

ケアマネジャー
柴田勇斗さん

今までは、サービス利用者がそれぞれの施設に自身の情報を伝えなければならず、利用者は負担感を感じていました。しかし今では、医療機関や福祉事業所がリアルタイムで情報共有し、必要時に送迎してもらえるようになったため、利用者はどこの施設もスムーズに利用できるようになり、とても暮らしやすくなったと感じます。

Topic 02 福業プロジェクトで「好きな時に働く」が実現

岐阜市の「福業プロジェクト」が、柔軟な働き方の新たなモデルとして全国から注目を集めている。医療・介護・福祉分野を中心とした人材交流制度は、登録者数3,400人を突破し、年間12,000件のマッチングが成立し、副業による収入は平均月額4.2万円となり、同時に多業種で人手不足が解消している。



Topic 03 自動運転×デジタル健康管理 医療格差ゼロへ



「スマホで健康管理、自動運転で病院へ！」をコンセプトに掲げる岐阜市のデジタルヘルスケア・モビリティサービス。自身のスマートフォンでオンライン診療や薬の処方を受けられるほか、受診の際は自動運転車両による医療送迎サービスを利用できる。市内12コースで運行し、年間利用者数は延べ28,000人。デジタル機器を活用した健康管理システムの登録者は65歳以上で78%に達した。

Topic 04 岐阜の菓子まき、全国ブランドで観光客年間100万人



岐阜市の伝統文化「菓子まき」を全国ブランドに押し上げた「ぎふ菓子まき日本一プロジェクト」が大成功を収めている。年間開催数は180回を突破し、「イベントの締めは菓子まき！」と、菓子まき目当ての観光客は年間100万人に達した。

「菓子まきで岐阜が全国的に有名になった！」と地元商店主の西田さん(58)は誇らしげに語る。まかれる菓子には、地域クーポンが同封されており、岐阜でお金がまわる仕組みが生まれ、地元銘菓の売上は5年前の3.2倍に増加し、大手菓子メーカーの工場が多数誘致されている。また、菓子まきコミュニティのSNSフォロワーは12万人を突破。岐阜の新しい文化として全国から注目を集めている。

さらに、このプロジェクトは岐阜市内の空き家・空き地を活用した交流拠点「みんなの居場所」で生まれたことも興味深い。

「みんなの居場所」は、多世代の新たな居場所として、特技・趣味を生かした新たなマッチングサービスに約8,700人が登録し、市内の各所で大小さまざまなつながりとうねりを生み出している。市まちづくり推進課によると、公式オフ会参加者の94%が「新しい友人ができた」と回答している。